

## 史跡芦浦観音寺跡保存活用計画の策定について

**事業目的** 史跡芦浦観音寺跡の管理団体である草津市として、当該史跡の適正な保存活用等を図り次代へ継承するため、史跡の保存活用の方針を定める「史跡芦浦観音寺跡保存活用計画」（以下「保存活用計画」という。）を策定する。

**業務内容** 保存活用計画は、教育委員会が「史跡芦浦観音寺跡保存活用計画策定懇話会」（以下「懇話会」という。）の意見を参考に素案を作成し、「草津市文化財保護審議会」（以下「審議会」という。）に諮問する。審議会では、素案を検討し、その結果を教育委員会に答申する。

### 検討内容

#### ①史跡の地区設定についての検討

史跡芦浦観音寺跡については、中核となる「境内地区」、旧境内の「西地区」および「北地区」の3地区に分けてそれぞれ保存活用を検討していく。

#### ②史跡の構成要素についての検討

上記3地区の構造物について、重要性を加味した構成要素の検討を行う。

#### ③史跡の現状変更についての検討

各地区の構成要素について、その重要度に基づき現状変更の取扱いについての検討を行う。

#### ④整備方針についての検討

史跡芦浦観音寺跡の適切な保存活用を行うための整備方針を検討する。

#### ⑤活用方針についての検討

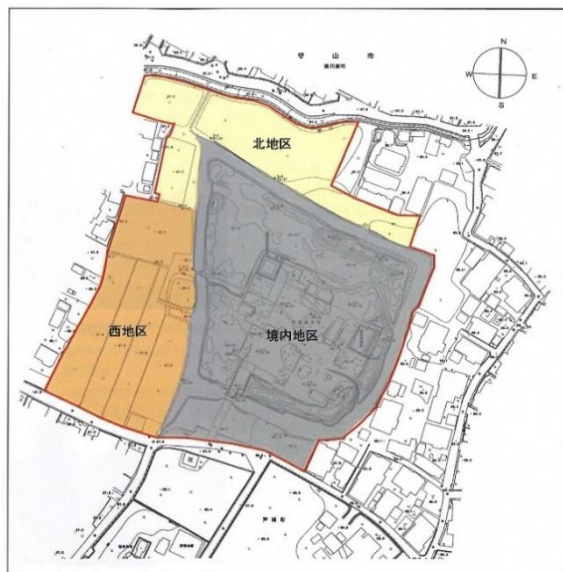
史跡芦浦観音寺跡および周辺の文化財の活用の在り方について検討する。

#### ⑥保存活用についてのスケジュールの検討

適切な史跡の保存活用が進められるよう、スケジュールの検討を行う。

#### ⑦史跡の適切な保存活用に向けた体制の検討

史跡の適切な保存活用が進められるよう、組織等の体制の検討を行う。



史跡芦浦観音寺跡 地区設定図

## 策定スケジュール

### 審議会スケジュール

開催時期	審議内容
第1回 (8月頃)	保存活用計画策定に係る諮問(教育長→会長)
第2回 (12月頃)	計画内容審議
1月頃	保存活用計画策定に係る答申(会長→教育長)

### 懇話会スケジュール

開催時期	懇話する内容
第1回 (7月上旬)	①史跡芦浦観音寺跡の概要説明 ②保存活用計画策定の説明 ③策定事項・策定スケジュール説明 ④地区区分と構成要素について ⑤次回説明 ⑥現地視察
第2回 (8月頃)	①構成要素について ②地区ごとの現状と課題 ③保存・活用・整備の方向性と方法 ④次回説明
第3回 (10月頃)	①現状変更等の取り扱い方針と基準 ②運営と体制整備 ③まとめ

策定スケジュール表 別紙のとおり

## 審議会・懇話会構成委員

### 審議会構成委員(案)

氏名	勤務先・職業	審議会担当部門
東 幸代	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科准教授	歴史学
五十川 伸矢	元京都橘大学文学部文化財学科教授	考古学
鎌谷 かおる	立命館大学食マネジメント学部 食マネジメント学科准教授	環境・景観
高梨 純次	元滋賀県立近代美術館 学芸課長	美術工芸
伊達 仁美	京都造形芸術大学芸術学部歴史遺産学科教授	民俗学・文化財活用
富島 義幸	京都大学大学院工学研究科准教授	建築学
増渕 徹	京都橘大学文学部歴史学科教授	史跡整備
南 英三	草津市観光物産協会会長	普及啓発・公開活用

### 懇話会構成委員

氏名	勤務先・職業	懇話会担当部門
青柳 憲昌	立命館大学理工学部建築都市デザイン学科准教授	建築学
有坂 道子	京都橘大学文学部歴史遺産学科教授	歴史学・文化財活用
井上 一稔	同志社大学文学部文化史学科教授	美術工芸
杉本 宏	京都造形芸術大学芸術学部歴史遺産学科教授	史跡整備・文化財活用
北川 義洋	草津市観光物産協会副会長	団体代表
安井 正一	人と地域が輝く常盤協議会会長	団体代表
西川 浄海	観音寺代表役員	所有者